

区分3 中高年関係(技術系型)

(サブタイトル) 経営者の視点を持った技術者としてセカンドキャリアを築くプログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容:e-ラーニングシステムとテレビ会議システムを活用したケースメソッドによる同時双方向でのライブ議論中心の授業。モジュール1,2の2階層に区分し、1において授業を開講、2において修了課題であるケースの作成およびキャリアカウンセリングを実施。

訓練の対象となる業種・職種等:長く技術職としてキャリアを培ってきた45歳以上の者で、転職によるセカンドキャリアの形成を希望する者。

(受講のメリット)

- ・組織の管理者や経営層としても活躍できる経営に関する専門的な知識及び実践力が習得できる。
- ・実務との両立をはかりながら自宅にて学修できる。



(実施した時の環境等)

訓練の内容:

- ・モジュール1:ビジネススキル向上に向けた4つのテーマの授業
- ・モジュール2:修了課題作成指導およびキャリアカウンセリング

募集期間:2019年3月16日~4月30日

応募人数:105人

受講人数:モジュール1 49人(選考により受講者を決定)
モジュール2 15人

受講日時:

- ・モジュール1 2019年5月18日~7月20日 土曜昼間(11:00~14:00)
- ・モジュール2 2019年7月27日~11月29日

社会人受講生のための配慮:

- ・授業を録画し、受講生専用ウェブサイトで授業後2週間配信

区分3 中高年関係(技術系型)

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容:

- ・ケースメソッドという教育手法で教授できる講師の確保。
- ・同時双方向でのライブ議論中心の授業であるため、欠席しないよう事前周知するとともに受講者の選抜も検討すべき。

訓練時間数:

- ・1回あたりの時間や総受講期間を考慮して設定した方が良い。
- ・受講対象者に応じた開講日の設定が必要。

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

キャリアコンサルティングの実施:

- ・授業の受講後、修了課題への取り組み前の時期にキャリアカウンセリングを行ったことにより、授業を振り返りながら修了課題への取り組みに向けた意識付けができた。



(受講者等からの声)

- ・経営目線での意思決定への理解が深まった。現場目線では理解できず憤ることもあったが、将来のあるべき姿を置いた際に、そうせざるをえない選択があることを理解できた。
- ・ビジネスの世界は変化のスピードが速くなっており、対応を誤ると瞬く間に衰退してしまうと感じた。
- ・最新のデジタル動向と普遍的な経営の意思決定の両軸を学ぶことができた。
- ・会社を変革するためには、組織内部の意識改革が欠かせないと痛感した。

(開発者) 学校法人栗本学園 名古屋商科大学大学院

(詳細・問い合わせ先)

厚生労働省HP: https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15218.html

厚生労働省人材開発統括官付参事官室(若年者・キャリア形成支援担当)中長期的キャリア形成支援係 03-5253-1111(内線5390・5398)

(写真のみを貼付)



教員は受講生や授業資料を見ながら授業を進めます



板書しながら授業が進むのも同時双方向ならではの



同時双方向でのライブ議論を行うための設備



教材や連絡事項はすべてオンラインで共有されます